

=====

\*\* 日本学術会議ニュース・メール \*\* No. 313-1 \*\* 2011/9/9

=====

- +++++
- ◇ 日本学術会議からの政府・社会に対する提言の公表について
  - ◇ 平成 26 年度共同主催国際会議の募集について（お知らせ）
  - ◇ 平成 23 年度共同主催国際会議「CIGR（国際農業工学会）国際シンポジウム 2011 持続的生物生産－水、エネルギー、食料－」の開催について（ご案内）
  - ◇ 公開シンポジウム「原発災害をめぐる科学者の社会的責任——科学と科学を超えるもの」の開催について（ご案内）
- +++++

■-----

日本学術会議からの政府・社会に対する提言の公表について

-----■

日本学術会議は、会則第 2 条に基づき表出する政府及び関係機関等への提言として、以下の提言を公表しました。

- 提言「持続可能社会における国土・地域の再生戦略」  
（土木工学・建築学委員会・国土と環境分科会）
  
- 提言「気候変動下における水・土砂災害適応策の深化に向けて」  
（土木工学・建築学委員会・地球環境の変化に伴う水害・土砂災害への対応分科会）

上記提言等は次の URL からご覧になれます。

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t133-1.pdf>

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-21-t130-9.pdf>

■-----

平成 26 年度共同主催国際会議の募集について（お知らせ）

-----■

日本学術会議では昭和 28 年度以降、国内で開催され、学術研究団体が主催する国際会議のうち、「学問的意義が高く」、「科学的諸問題の解決を促進する」等、特に重要と認められる国際会議について、共同主催を行うことにより、学術研究団体への支援・協力を行っています。

※平成 23 年 10 月 3 日（月）～11 月 30 日（水）まで、平成 26（2014）年度に

開催される国際会議を対象に共同主催の募集を行います。

詳細についてはこちらをご覧ください。

<http://www.scj.go.jp/ja/int/kaisai/entry.html>

---

平成 23 年度共同主催国際会議「CIGR（国際農業工学会）国際シンポジウム 2011 持続的生物生産－水、エネルギー、食料－」の開催について（ご案内）

---

会 期：平成 23 年 9 月 19 日（月）～23 日（金）[5 日間]

場 所：タワーホール船堀（東京都江戸川区）

日本学術会議と日本農業工学会が共同主催する「CIGR（国際農業工学会）国際シンポジウム 2011 持続的生物生産－水、エネルギー、食料－」が、9 月 19 日（月）より、タワーホール船堀で開催されます。

当国際会議では、「持続的生物生産－水、エネルギー、食料」をメインテーマに、持続的生物生産のための農業生産環境の評価・解明・利用、人類に不可欠な安全・安心で高品質な食料生産の増強等を主要題目として、研究発表と討論が行われることとなっており、約 30 ヶ国から 300 名を越える研究者の参加が見込まれています。

また、一般市民を対象とした公開講座として、9 月 19 日（月）に「科学技術・情報の国民への還元－農業環境工学－」、20 日（火）に「Greenhouse Production in US : Status, Challenges, and Opportunities（英語講演：通訳付き）」、22 日（木）に「放射能と農産物等の安全」が開催されることとなっておりますので、関係者の皆様に周知いただくとともに、是非、御参加いただけますようお願いいたします。

CIGR（国際農業工学会）国際シンポジウム 2011

持続的生物生産－水、エネルギー、食料－

市民公開講座 【科学技術・情報の国民への還元－農業環境工学－】

日 時：平成 23 年 9 月 19 日（月）13:30～16:30

会 場：タワーホール船堀（5 階 小ホール）

講 演：最近の気象・気候－異常気象・台風・黄砂など－

真木 太一（筑波大学 北アフリカ研究センター客員教授、九州大学名誉教授）

他 5 件

市民公開講座

【Greenhouse Production in US : Status, Challenges, and Opportunities】

日 時：平成23年9月20日（火）15:30～17:00

会 場：タワーホール船堀（4階 大ホール）

講 演：Murat Kacira, PhD, Associate Professor,  
Department of Agricultural and Biosystems Engineering,  
College of Agriculture and Life Sciences, University of Arizona  
（通訳付き）

市民公開講座 【放射能と農産物等の安全】

日 時：平成23年9月22日（木）10:00～12:00、13:00～17:00

会 場：タワーホール船堀（4階 大ホール）

講 演：放射能はどのように空気中を移動したか  
－放射能影響予測による拡散・沈着－  
真木 太一（筑波大学 北アフリカ研究センター客員教授、九州大学名誉教授）  
他7件

※詳細は以下のホームページをご参照ください。

- 国際会議公式ホームページ（<http://www.cigr2011.org/j/index.html>）
- 市民公開講座ホームページ（学術会議HP）  
（<http://www.scj.go.jp/ja/int/kaisai/pdf/110919.pdf>）

【問合せ先】日本学術会議事務局参事官（国際業務担当）付国際会議担当  
（Tel：03-3403-5731、Mail：[i254@scj.go.jp](mailto:i254@scj.go.jp)）

公開シンポジウム「原発災害をめぐる科学者の社会的責任——科学と科学を超えるもの」の開催について（ご案内）

◆日 時 平成23年9月18日（日）13:00～17:00

◆場 所 東京大学法文2号館1番大教室（東京都文京区本郷7-3-1）

◆主 催 日本学術会議哲学委員会・日本哲学系諸学会連合・  
日本宗教研究諸学会連合

◆趣 旨

東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故、それに続く深刻な放射能汚染や健康被害について、一般社会からは情報発信や説明責任の不十分さ、

不適切さが厳しく批判されている。日本の科学者・学界は、これらの問題に適切な判断を下し、十分な情報提供を行い、社会的責任を果たしてきたと言えるであろうか。そもそも関連する諸科学は、原子力発電にともなうさまざまなリスクを、あらかじめ適切に評価・予測し、十全な対策を提示することが可能なのだろうか。科学によって問うことはできるが、科学だけでは答えを出すことができない、いわゆる「トランス・サイエンス」の領域が急速に拡大し、複雑化しているのが、現代の最先端の知が直面している大きな課題である。このたびの福島第一原発災害の問題は、まさにそのような正負両面をもつ巨大な科学知・技術知の力を、どのようにしてコントロールすべきかという難問を、人文・社会科学を含むすべての科学者に強く投げかけている。だとすれば、今こそこの困難な課題に対して、さまざまな学問諸領域の専門知を総動員し、何をなすべきか、何をなしうるかを議論し合い、共通理解を深めるべき時ではないだろうか。

このような状況を踏まえ、日本学術会議哲学委員会では、自然科学系と人文学系の双方の専門家をパネリストに迎え、原発災害をめぐる領域横断的なコミュニケーションの場を設け、「科学と科学を超えるもの」についての問題意識を共有するとともに、原発災害に関わる科学者の社会的責任を見つめ直すためのシンポジウムを企画した。学問的に正確な知識・情報を的確かつ十全に市民に公開・伝達するという「学術と生活世界を媒介する」活動を科学者全般の重大な責務としてとらえ、深く問い直すための機会となれば幸いである。

#### ◆次 第

司会 金井淑子（立正大学文学部／倫理学）

13:00～13:10 開会挨拶

野家啓一（東北大学理事、日本学術会議哲学委員会委員長／哲学）

13:10～15:10 報 告（各パネリスト 20分）

唐木英明（元東京大学アイソトープ総合センター長・獣医薬理学）

小林傳司（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター／  
科学哲学、科学技術社会論）

押川正毅（東京大学物性研究所／理論物理学）

鬼頭秀一（東京大学新領域創成科学研究科／環境倫理学）

島 蘭 進（東京大学人文社会系研究科／宗教学）

15:10～15:30 休 憩

15:30～16:50 全体討議

16:50～17:00 閉会挨拶

丸井 浩（東京大学人文社会系研究科、哲学委員会副委員長／  
インド哲学）

詳細については、以下のURL（日本学術会議HP）を御覧ください。

<http://www.sc.j.go.jp/ja/event/pdf/133-s-1-2.pdf>

【問い合わせ先】

日本学術会議事務局第一部担当 小林（TEL 03-3403-5706）

\*\*\*\*\*

学術情報誌『学術の動向』最新号はこちらから

<http://www.h4.dion.ne.jp/~jssf/text/doukousp/index.html>

\*\*\*\*\*

=====

日本学術会議ニュースメールは転載は自由ですので、関係団体の学術  
誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多く  
の方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

=====

発行：日本学術会議事務局 <http://www.sc.j.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34